

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は 90 年を超える歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。
生徒一人一人と丁寧に向き合い、確かな学びをサポートして、社会に貢献する生徒を育成する学校をめざす。

1. 多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、「やったらできる やらなでけん」をキーワードに、高い学習意欲を持った生徒を育てる。
2. 生徒指導に力点を置き、規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
3. 生徒一人一人が自信と希望を持って学校生活を送るよう、「成功体験」を感じることができるよう教育活動を展開する。
4. 地域に支えられてきた本校のたたずまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校との連携を深め、地域に本校の応援団となっていただけよう、開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の進路実現の支援

(1) 進路指導体制の確立と進路実績の向上

- ア 生徒の多様な進路に対応できるよう、進学講習や資格取得に向けた指導など進路指導部を中心とした 3 年間の進路指導体制を確立する。
イ 3 年間を見通した進路計画のもと、「総合的な学習の時間」や LHR を通して、早期（1 年時）から卒業後の進路に向け動機づけを行う。
ウ 進路希望実現率の向上を図る。
入学時に基礎学力調査で国数英 3 教科が難関・中堅 8 私大合格レベル以上の生徒の半数以上を 3 年後現役合格
医療・看護系短大・専門学校への進学希望者の全員合格
就職について早期指導と企業開拓に努め、引き続き 100% の就職率をめざす。

※「総合的な学習の時間」を充実させ、積極的に進路選択に取り組む意識の醸成をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目で、1 年終了時点で卒業後の進路希望を決めている生徒の率平成 29 年度 60% をめざす。
※学校教育自己診断の進路に関する指導や情報提供に関する項目で、平成 29 年度に生徒・保護者とも肯定的回答 80% をめざす。

2 確かな学力の育成

(1) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成

- ア 生徒の進路希望に応えるようカリキュラムの点検・充実を図る。
イ 基礎学力検査や英語検定などの各種検定試験を校内実施し、学習の具体的な目標とする。
※ 基礎学力調査で 3 年次 4 月の推薦入試合格レベル以上の人数割合を平成 29 年度に 60% 以上

(2) 「わかる授業・できる授業」をめざした学びの充実の取組み

- ア 授業改善に向けた教員研修、研究授業の充実を図る。
イ 分かりやすい授業を進めるため、「平成 27 年度学校経営推進費事業」により導入した全普通教室にプロジェクタを含め、ICT 機器・視聴覚機器の活用を進める。
ウ 教科ごとの学力の到達目標と達成へのロードマップを策定し、1 年から目標をもって授業に取り組む姿勢を育成する。
※授業アンケート中の授業に対する評価に占める肯定的回答平成 29 年度に 80% をめざす。(H27 第 2 回 75.2%)
※学校教育自己診断で、「子どもは、授業に満足している」と回答する保護者の割合を平成 29 年度に 65% をめざす。
※学校教育自己診断で、「自分なりの目標をもって授業に臨んでいる」生徒の割合を平成 29 年度に 1 年で 60%、2・3 年で 70% をめざす。

3 規律・規範の確立と生徒の活動の活性化

(1) 生徒の規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化する

- ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
イ 不登校生徒や家庭状況など様々な困難を抱えた生徒に対して、保護者及び中学校、関係機関等と緊密な連携を図るとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目で、「本校の指導は適切で納得できる」(H26:63%、H27:65%) 平成 29 年度に 75% をめざす。
※生徒の部活動入部率(H26:68%、H27:58%)を平成 29 年度には 70% をめざす。生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度(H26:71%、H27:72%)を平成 29 年度には 80% をめざす。

4 地域連携の推進

(1) 教育活動についてホームページ等を通じて積極的に発信するとともに、地域社会の一員として地域の様々な取組みに参加・貢献する。

- ア ホームページや学校説明会・中学校訪問を通して渋谷高校の教育内容の広報に努め、生徒が高校で学ぶ意義・目標をもって入学してくる学校づくりをめざす。
イ 携帯電話によるメールマガジンの充実を図り、教育活動について保護者との連携を強化する。
イ 近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、地域の乳幼児と保護者を招いての保育実習講座「渋谷であそぼうデイ」や天文観測会、生徒会及び部活動の地域行事への参加を進める。
※生徒向け学校教育自己診断の地域連携に関する項目で、教育活動を通して、地域の人々と関わる機会がある生徒の率(H26:32%、H27:38%)平成 29 年度には 45% をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】 「渋谷高校に来てよかった」と回答した生徒が 83%、「子どもは渋谷高校が楽しいと言っている」と答えた保護者が 81%とほぼ昨年並み。学校行事の満足度も生徒・保護者ともやや上昇し、部活動の充実度についての保護者の評価も昨年度を少し上回った。行事の工夫や丁寧な指導を心がけたことで、学校生活全般に対する満足度を高水準で維持できた。</p> <p>【学習指導】 生徒の家庭学習時間が 1 時間以上の者は 25%と横ばいであり、学習習慣の定着は依然として課題である。一方、子どもが予・復習していると答える保護者は 31%と 2 ポイント上昇し、学習の習慣づけの兆しは感じられる。「自分なりの目標を持って授業に臨んでいる」生徒が 62%と上昇を続けており、キャリア学習の強化が授業に対する取り組み意識の向上につながった。</p> <p>【生活指導】 「納得できる指導か」については、生徒が 56%と昨年を 9 ポイント下回る結果となった。遅刻・頭髪・服装指導を強化して成果を上げているが、丁寧に指導方針を浸透させる必要がある。</p> <p>【進路指導】 組織的な進路指導体制の充実が進みつつあり、進路情報について「学校はよく知らせてくれている」は、生徒は 76%と横ばいだが、保護者は 82%に上昇した。</p>	<p>第 1 回 (6/20) OH28 年度学校経営計画について ・四大への進学が増加している。一昨々年と比べると進路的に成果を上げてきているようだ。 ・遅刻が減るなどの成果が表れているのはよい。 ・中学校としては、クラブ活動の充実を期待。魅力ある学校となって志願者数を維持してほしい。 ・地域連携を今までどおり行ってほしい。</p> <p>第 2 回 (11/15) ○授業見学および経営計画進捗状況について ・保護者への授業公開を土曜日に行うことも、多くの保護者の参加を得る方法ではないか。 ・(渋谷高校に期待するものとして) 普通に頑張れば、その次の夢が叶う学校。希望の進学や就職が実現する安心して行ける学校であってほしい。クラブ活動の紹介も積極的に行ってほしい。 ・いろいろな取組みを一過性でなく継続できているのはよいこと。間口が広く、ポイントがどこにあるのか見えにくい、いろいろなことを行うことが方向性になっていくのでは。単一に掘り進めるだけよりもよい。</p> <p>第 3 回 (2/15) OH28 自己評価・H29 経営計画 (2 月暫定案) について ・就職希望者が多くなっている。進学も就職もできる高校としてアピールできるのでは？ ・生徒指導について、カウンセリングマインドを持ってさらに尽力すれば、素晴らしい学校になる。 ・高校でも人権教育に取り組んでいることを聞いて安心した。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路実現の支援	<p>(1) 3年間を見通した進路指導体制の構築と進路実績の向上</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導体制の構築</p> <p>イ 「総合的な学習の時間」及びLHRの検討と実施</p> <p>ウ 進路実現率の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・進路指導部と学年の連携を深め、生徒・保護者への指導及び情報提供等が適切に行える進路指導体制を構築する。</p> <p>イ・「総合的な学習の時間」及びLHRについて、3年間のキャリア学習の観点から検討・実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力調査の結果を個人懇談に十分活用し、進路意識の醸成に努める。 <p>ウ・自習室を活用するとともに、組織的な進学講習体制を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種技能検定の受験を積極的に勧め、学習の目標を持たせる。 関西8私大現役合格 多様な進路希望の実現 	<p>(1)</p> <p>ア・保護者向学校教育自己診断において「進路情報の提供は適切である」80%（平成27年度77%）</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断において「卒業後の進路希望を決めている」を1年次で55%（平成27年度53%）、2年次で75%（平成27年度75%）</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「進学講習に参加した」25%（平成27年度21%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 難関中堅8大学へ7名の現役合格（平成27 10名） 看護医療系進学率 100%（平成27 100%） 就職内定率 100%（平成27 100%） 	<p>(1)</p> <p>ア 進路説明会や大学見学・職場見学などの取組みを継続し、進路指導部と学年の連携を強化した結果、保護者向学校教育自己診断において「進路情報の提供は適切である」は82%と目標を上回る評価を得た。（◎）</p> <p>イ 「総合的な学習の時間」やLHRでのキャリア学習の取組みを継続し、前年度の成果を継承発展させることができた。生徒向学校教育自己診断では「卒業後の進路希望を決めている」が1年60%、2年73%と2年で昨年をやや下回ったが、1年は目標を上回り、将来の目標を持って日々の学校生活に取り組み意識を概ね醸成することができた。（○）</p> <p>ウ ・生徒向学校教育自己診断で「進学講習に参加した」が23.6%と上昇し、目標こそ下回ったが、進路実現に向けた取組みが生徒の意識向上につながった。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> 難関中堅8大学合格者は、10名と目標を上回った。（◎） 看護医療系進学希望者については、23名全員が合格（1名補欠合格）。100%（○） 就職希望者については、一次・二次を通して、当初の希望者の内定率100%を達成した。進路希望変更による新たな就職希望者の指導を継続している。（○）
確かな学力の育成	<p>(1) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成</p> <p>(2) 授業改善の取組</p> <p>ア 授業研究・研修の充実</p> <p>イ 視聴覚機器の活用</p> <p>ウ 授業に取り組む姿勢の育成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程を点検し、必要に応じて修正を行う。 基礎学力調査や各種検定を学習の具体的な目標として活用する。 <p>(2)</p> <p>ア 引き続き、授業充実プロジェクトチームを中心に研究授業、授業公開を行い、授業の充実に取り組む。</p> <p>イ 普通教室に設置した 프로젝タを活用し、ICT機器を活用した指導法の工夫をすすめる。</p> <p>ウ 授業に取り組む姿勢を育成するとともに、予習・復習など家庭学習の習慣づけを図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断における「目標を持って授業に臨んでいる」65%（H27 59%） <p>(2)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断に「満足できる授業が多い」を追加し、50%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向学校教育自己診断において「子どもは授業に満足している」60%（H27 58%） <p>イ・生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」5%増（H27 60%）</p> <p>ウ・生徒の家庭学習時間が1時間以上の生徒30%</p>	<p>(1)</p> <p>新たな選択類型の導入により、生徒の学習に対する意欲の向上に取り組んだ。1・2年の英検全員受験の取組みなどを通して、生徒向学校教育自己診断における「目標を持って授業に臨んでいる」が目標には及ばなかったが62%に上昇した。（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア・教員個々の授業充実の取組みが進み、新設した生徒向学校教育自己診断に「満足できる授業が多い」は肯定評価が65%と目標を大きく上回った（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者向学校教育自己診断において「子どもは授業に満足している」が62%に上昇し、目標を達成（◎）。授業改善の取組みを継続する方向性が確認できた。 <p>イ プロ젝タを活用した教員が半数を超え、ICT機器の活用が進み、授業充実の取組みに貢献した。生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」が78%と前年をはるかに上回った。（◎）</p> <p>ウ 学力向上に向けた様々な取組みを行っているが、生徒の家庭学習時間が1時間以上の生徒は25%で微増にとどまり、引き続き取組みが必要である。（△）</p>
規律・規範の確立と生徒の活動の活性化	<p>(1) 生徒の規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化</p> <p>ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める</p> <p>イ 支援を必要とする生徒、不登校生徒や家庭状況が困難な生徒等に対して、保護者等との緊密な人間関係を構築するとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻指導を見直し、一層効果的なものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下校時の立ち番指導及び地元警察との連携等により、下校時の自転車マナー指導を強化する。 携帯メールを活用して発信力を強化し、学校の指導方針について保護者の理解と協力を求める。 <p>イ・支援を必要とする生徒の指導については、これまで支援教育委員会・教育相談委員会・生活指導部・学年・養護教諭が連携を取り、保護者の理解を得ながら進めてきた。合理的配慮を含め、引き続きこの連携を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーや子ども家庭センターなどの外部専門機関との連携を積極的に進める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の1学期中の全員入部制度により部活動への参加を勧める。 大会等で好成績を収めた部に対する支援と広報に努める。 文化祭、体育祭等の生徒会行事への積極的な参加を促進する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」70%（H27 65%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数 10%減 地域からの登下校マナーの苦情減 <p>イ・支援教育委員会・教育相談委員会での定期的な情報交換の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」60%（H27 57%） <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部加入率 60%（H27 58%） 生徒向学校教育自己診断において学校行事の満足度80%（H27 72%） 	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻指導を強化した効果が大きく表れたが、生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」が56%に下がった。服装・頭髪の指導も強く進めており、それに対する反応が現れたかもしれない。今後、学校の生徒指導方針を粘り強く伝える取組みが必要。（△）</p> <p>遅刻数は、3348件と44%減。（◎）</p> <p>登下校のマナーの苦情は昨年並み（○）</p> <p>イ 「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」は54%と昨年を下回ったが、教育相談委員会は定期的な情報交換により、個々の生徒の課題に学校として丁寧な対応ができた。また、支援教育委員会は配慮を必要とする生徒への対応方針を示す役割を果たした。（△）</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の1学期全員加入の取組みを継続したが、部活動加入率は58%と昨年並み（○）。 全国大会出場や1部リーグへの昇格などの成績を収めたクラブ活動への支援や広報は積極的に行っている。 学校行事については、文化祭の前夜祭を実現するなど、生徒の要望に応える取組みを行い、満足度は、目標は下回ったものの、75%に上昇した。（○）
地域連携の推進	<p>(1) 教育活動についてホームページ等を通じて積極的に発信するとともに、地域社会の一員として地域の様々な取組みに参加・貢献する。</p> <p>ア 情報発信の充実</p> <p>イ 地域連携の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア ホームページ、学校説明会や中学校訪問を通じて積極的な広報活動・情報発信を行う。</p> <p>イ 生徒会・部活動による地域行事への参加など地域への貢献を一層進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ホームページに部活動ブログを追加する。</p> <p>イ 生徒向学校教育自己診断において「地域の人々と関わる機会がある」40%（H27 38%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア 部活動ブログを新たに開設し、各クラブによる活動の報告を随時行うことができた。（○）</p> <p>イ 地域との連携に引き続き取組み、生徒向学校教育自己診断において「地域の人々と関わる機会がある」が44%と目標を上回る結果となった。（◎）</p>